2. 指紋各型の分布は左右に於て僅かに異なる。左右非對稱の法則。
 3. 同じ組合せでも順序により其の頻度を異にす。左右非對稱の法則。
 以上の如き考察が學界の謎たる指紋の研究に一道の光明たり得ん事を望む。

男 指紋各型相關表 (拇指)

$\begin{smallmatrix} R \\ L \end{smallmatrix}$	N	T	T _D	U _D	U _T	U	合計
N	9	23	2	1	2	4	41
T	1	742	92	30	82	154	1101
T _D		63	143	42	78	105	431
U _D		7	10	50	16	30	113
U _T		35	17	6	72	61	191
U		63	42	20	65	370	560
合計	10	933	306	149	315	724	2437

女 指紋各型相關表 (拇指)

$\begin{smallmatrix} R \\ L \end{smallmatrix}$	N	T	T _D	U _D	U _T	U	合計
N	29	30	3				62
T	4	709	72	20	50	61	916
T _D		80	102	25	40	45	292
U _D		10	27	23	19	22	111
U _T		49	30	6	73	53	211
U		61	52	25	52	159	349
合計	33	939	286	109	234	340	194

YAMAGUTI, Y. 1939. Über die Vererbung der anormalen Blütenform „Tomoe“ bei *Portulaca grandiflora*. *Jap. Jour. Genet.* 15: 357-358.

マツバボタンに於ける巴咲の遺傳に就て

山 口 彌 輔

東北帝國大學理學部生物學教室

花 形 茲に巴咲と稱するのは、第1圖にある様に花の中心から見て、個々の花瓣の左側が外へ捲き右側が内へ捲く性質を有つた花を指したもので、通例左側の捲方が著しい爲め、上部から

第1圖 巴咲

之を見れば恰もトモエサウに於けるが如く右廻りに巴形を呈する。但し左右兩側に於ける捲方の程度が略同様であつて往々にして齒車形を呈することもある。斯かる巴咲の花瓣が蕾中に疊込まれて居る状態は普通咲のものとは相異がなく、従つて開花の當初に於ては何等兩者を區別出来ないが巴咲のものでは開花後に於て次第に反捲の程度を増して行く特性を有つて居る。之は明に瓣生長の異常現象であつて其發展上には外圍の條件、就中溫度、光等が大きな影響を有つて居る様に見受けられる。

尙異狀花形の他の種類として花瓣の左右兩側共に外側へ反捲して外見上前記の齒車形に類似した相貌を呈するものがあるが、之が果して遺傳的性質であるか何うかは目下未だ不明である。

普通咲のものでは多くは花瓣が左右兩側共に内側へ反捲する傾向がある。

巴咲の出現 1933 年栽培の一系統に總數 18 株中 5 株の巴咲が始めて見出された。其の 1 株を自花受精によつて次代を検べ、其個體が已に該花形に就て同型接合體であつて、後裔は總て巴咲であることが解つた。即ち巴咲が普通咲に對し單純劣性形質であつて、1933 年の結果は單性雜種の分離比に該當することが已に明示されて居つたことになる。

花色に就ては前記 18 株中 5 株の巴咲個體は總て赤花を有し自花受精によつて次代を検べた個體は紫紅、赤及黃に分離した。

交雜の結果 上述の如く巴咲の同型接合體が得られたので、紫紅及黃色花の巴咲個體と極淡黃及白色花の普通咲個體との間に相互交雜を行ひ、 F_1 植物が總て普通咲であり、 F_2 世代に於ける花形の分離が、第 1 表に示されて居る如く、單性雜種のそれに該當し巴咲が普通咲に對し劣性形質であることを確めた。この巴咲に關與するゲンに t の記號を與へることにする。

第 1 表

	普通咲	巴咲	合 計
實 驗 値	546	178	724
理 論 値	543.00	181.00	
D/m	-0.26	+0.26	

尙上記の F_2 世代に於ける花色の分離は様々であり、2 系統では紫紅、黃、極淡桃、及び極淡黃に、2 系統では紫紅、硫黃及び白に、1 系統では紫紅、赤及び白に、2 系統では硫黃、黃及び白に分離した。よつて花色に關與するゲン S 及び C と巴咲に關與するゲン t との間にリンケージ關係がないかを檢べて、第 2 及び第 3 表に示した様に全く獨立分離をなすことを確めた。

第 2 表

	ST	St	sT	st	合 計
實 驗 値	122	56	36	11	225
理 論 値	126.56	42.19	42.19	14.06	
D/m	-0.61	+2.36	-1.05	-0.84	

第 3 表

	CT	Ct	cT	ct	合 計
實 驗 値	404	133	142	45	724
理 論 値	407.25	135.75	135.75	45.25	
D/m	-0.24	-0.26	+0.59	-0.03	

巴咲出現の考察 巴咲が如何なる過程を経て出現したかに就ては確實な材料は持合せて居ないが、ゲンの突然變異によるものと今の所想像して居る。

此研究に日本學術振興會より補助された研究費の一部を使用した。茲に謝意を表する。